



脂乗り抜群の『室戸春ぶり』をぜひご堪能ください。

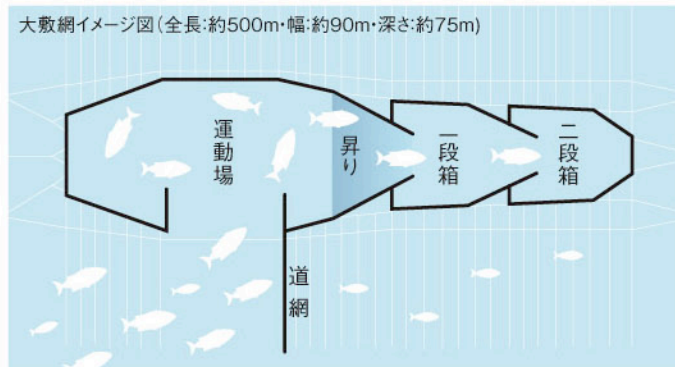


日本屈指の好漁場室戸沖!

ユネスコ世界ジオパークに登録された、豊かな地形を有する高知県室戸。その地形は海の中までつながり、日本屈指の好漁場となっています。北の海域で栄養を蓄えたブリをはじめとする回遊魚は産卵のため、南下して室戸沖を通過します。室戸沖ではその回遊ルートに網を置いて200種類以上もの魚を獲る「定置網漁(大敷網)」が行われています。

回遊してくる魚はまず、「道網」と呼ばれる網にぶつかります。魚は障害物にであうと沖に逃げる習性があることから、沖に「運動場」と呼ばれる網を置き、魚を集めます。さらに、運動場から魚が逃げないように、魚が通りやすいが戻りにくいよう設計された「昇り」「一段箱」「二段箱」をつなげ、二段箱に入った魚を船で効率よく引き揚げます。

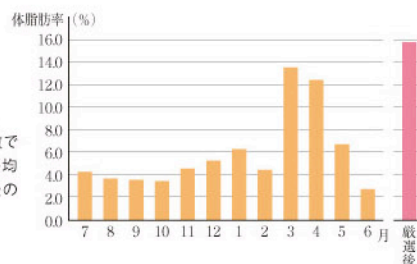
大敷網イメージ図(全長:約500m・幅:約90m・深さ:約75m)



春こそ旬の室戸春ぶり!

「春に脂の乗った魚を食べたい!」という人はブリがおすすすめ。春に室戸で獲れるブリは脂乗りが抜群。他の季節と比較しても体脂肪率が高いことが科学的に立証されています。脂乗りのよいブリの中からさらに7kg以上のブリを厳選し、『室戸春ぶり』として皆さまにお届けしています。

令和3年7月～4年6月に芸東4大敷で漁獲されたぶり(ブリ、メジロ)の月別平均体脂肪率及び春ぶり基準で厳選後の平均体脂肪率



持続可能な漁業を後世に!

室戸の定置網漁は1895(明治28)年から始まり、大正時代にぶりを中心に獲り出してから100年を超えました。ここまで長く定置網漁が続いてきた理由の一つは自然に優しい漁業であることです。運動場に入ったすべての魚は二段箱まで入るのではなく、一部の魚は網の入口から出て逃げていきます。この逃げた魚たちが、子孫を残す資源につながっていきます。もう一つは先人が経験や改良を積み重ねた魚を獲る技術の粋であることです。資源を残すことと効率よく獲ること。この2つをバランス良く行うことを後世に引継ぎ、皆さまに美味しい魚を持続的に食べていただけるよう、真摯に漁業に取り組んでいきます。